

## カーボンニュートラル実現に向けた要望のとりまとめについて

2021年7月

(一社) 日本建設機械工業会

平素、建設機械産業界が大変お世話になっております。

2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（令和3年6月18日、以下「同戦略」）につきましては、建設機械業界としてもその重要性を十分理解し、対応を検討しているところであります。

当業界としては、その実現のためには、技術開発や製品普及のための税制、補助金等の政策的支援や時間的配慮、中小企業に対する各面での配慮、及び国際競争上の観点が必要であると考えております。また、その前提として業界と十分に意見交換しつつ、政府として具体的内容を検討し、実施していただきたく存じます。

当方で、これまで会員各社から聞き取りました具体的要望内容を取りまとめたものは、以下の通りとなります。今後の政策検討の際に活用いただくようお願い申し上げます。

なお、既に同戦略に具体的に記述されている内容については、重複を避けるため一部を除き入れておりません。また、当方検討の途中段階にあるため、下記内容についても今後、追加や修正等があり得ますことを御容赦願います。

### 【要望内容】

#### 1 関連インフラの整備への支援

- 充電・水素充てん技術・インフラの整備
  - ・ 建機出力に合った大容量充電・充てんに必要な技術開発と早急な施設整備
  - ・ 建設、土木工事現場へ移動可能な供給手段の技術開発促進

## 2 関連規格、基準等の整備、効率的運用、規制緩和、研究開発への政府支援

### (1) 建設機械自体

○ディーゼルエンジンを前提とした排ガス、騒音、振動、安全に関する規制、規格、認定制度、リサイクル関連制度等の見直し

(国内規格と海外規格との調和、それによる互換性確保)

○認定・指定プロセスの簡素化

今後検討される認定制度等における簡素なプロセス、迅速な対応。

認定取得のための検証場所・施設の整備。

○導入加速化のための開発・実装に係る支援

・研究開発に伴い必要となる試験の公的試験機関の無償開放、公的試験機関への機体輸送費支援

・研究開発のため社内試験場で必要になる機器、設備関連整備の購入支援(DC急速充電器など)

### (2) 関連する設備、部品等に関するもの

○電気、水素の供給に関する各種規格や仕様の統一

(例)・電池の容量・サイズ等の統一、部品の規格化

・充電・充てん設備と機械の接続プラグの標準化

(国内規格と海外規格の調和、それによる互換性の確保)

○規制緩和

・大容量の電池及び水素の輸送・貯蔵に関する各種規制緩和

(研究開発用の給電設備・水素貯蔵設備の設置に加えその運用面を含む)

・既存設備流用の容易化(ガソリンスタンドの水素ステーション化等)

### (3) 国際競争の観点(上述内容を含む)

○海外規格・規制とのハーモナイズ

・建機を域内で生産し、また日本から建機を輸出している欧米主要国との間のみならず、完成品や部品の輸出先であるアジア諸国・新興国における機械本体及び充電、電池、水素に関する各種規格のハーモナイズ。

(上記2.の内容の他、電池や水素の安全性、密度、耐久性等も含む。

また建機自体のCO<sub>2</sub>排出基準に関するもの等)

### 3 建機ユーザー側への支援

○継続的な補助金、税制上の支援、低利融資、利子補給制度

(補助金の支援対象例)

- ・導入時の支援に加え、水素利用の場合はディーゼル燃料費との差額についての支援
- ・完成車とともに補修用部品に対する支援

(税制上の支援)

- ・償却年数の短縮・統一、一括償却制度の整備  
環境負荷の低い革新的機械への代替を進めるために有用
- ・電池のリサイクルを進めやすくする制度の整備

○アフターサービスに関わる整備士、整備工場の制度整備、人材育成支援

- ・EV自動車整備士や現行建設機械整備士との連携を図り、効率的な整備が行えるような制度設計、人材育成の後押し。

### 4 国内外の需要創造、全体論

(1) 国内外における需要創造のための政府の施策

○革新的建設機械の公的認定制度の創設と簡易・迅速な認定（一部再掲）

○公共工事入札における有利な取扱い

(CO2削減量に応じた評価ポイントの付与、モデル事業の実施等)

○民間工事においても、公共工事に類似した制度の導入

○ODAを通じた途上国での電気・水素ステーションなどのインフラ整備支援、革新的建設機械の供与支援

\* 「インフラシステム海外展開戦略」のCNへの貢献の部分に、建設機械・土木分野を追加

(2) 全体論

○政府として土木インフラ分野に関する具体的ロードマップの明確化  
(技術目標、スケジュール等)

○ICT施工の促進

○テレマティクス技術の活用推進

○移行段階としての e-fuel への支援

既存ディーゼルエンジンで使用できる e-fuel が開発されれば、市中にある機械の CO2 削減ができ効果は大きい。政府主導での開発を望む。

(建機の場合、大出力、長時間、山間部等の特殊事情があり、電化、水素燃料が導入するまでは、短期的には e-fuel への支援も重要)

(以 上)